

29. 麦をつくる

ムギタ・ムギジという二毛作田では、ムギ（裸麦）・小麦・大麦を作った。裸麦は牛の餌、大麦は牛の餌と麦飯、小麦は売った。ビール麦の栽培も一部で見られた。

麦の畝立て

麦蒔きは10月末～11月半ば。遅れると収実が少ないので、早稲の刈り跡から畝立てにかかる（千里丘東）。イナキ（稲木）を組むところは先に鋤いておいて、田刈りの済みしだいカラスキで4株を1畝に立てていく。畝の側面は稲株が裏返ってイシガケ（石垣）のようになっている。下手な人は畝立て中に株をゴロゴロ谷に落としてしまう（鶴野）。

麦まき

ヒトスジマキ（一条蒔き）の時は畝にのって鍬を引いて蒔溝をつくり、フタスジマキは鍬をハスカイ（斜め）にして、刃先の両端の尖ったところで溝を付ける。麦を蒔いた上にウマヤコ（堆肥）を置いていく（鶴野）。堆肥を置くのは日除け、鳥よけ（千里丘）。

中耕・除草

1～2月、3～4月、天気よくて乾いたら肩の土を削る。草が生えるから（千里丘）。畝の肩の草を鍬で削ってタニに落としタニの土を畝に積んでいく。このアイカリには刃先の両端の尖った風呂鍬を使う。刃先は1年で磨耗するのでサッカケに出す（鶴野）。

アイグワ

A は刃幅13cm、長さ36cm、柄は131cm、柄角の小さい軽い鍬でアイグワと呼んだ。アイグワは500匁（1.9kg）と軽く、タニの土をさらえて畝にのせ、鍬を振り上げて鍬平の下面でドーンと打った（千里丘東）。この形の鍬をアイカリと言った（鳥飼上）。

麦ふみ

ムギフミで株を丈夫にし、分蘖（ぶんけつ＝根元から分かれて何本も出る）を促す。

ケズリダニ（削谷）・土入れ

4月の終わりに畝の側面を後ろ向いて鍬で削っていく。このケズリダニにはBのリョウビキも使った。削った土はDの竹簀入りの軽い鋤簾や、Eのへりの曲がった鋤簾鍬・三徳鍬を使って土入れする（千里丘）。Cのタニアゲキ（谷揚機）は牛に引かせて能率よくできたが、手でやる方がはっきりできた（千里丘）。

土掛けは麦の根を強くする。石灰窒素を播く（別府）。

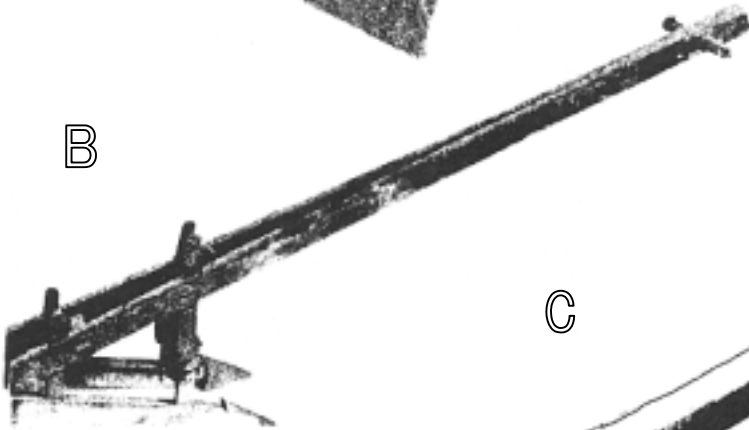
肥料はよく要る

麦の肥料は堆肥、干鰯、大阪市域の人糞。小麦はとくに肥料が要った（千里丘）。

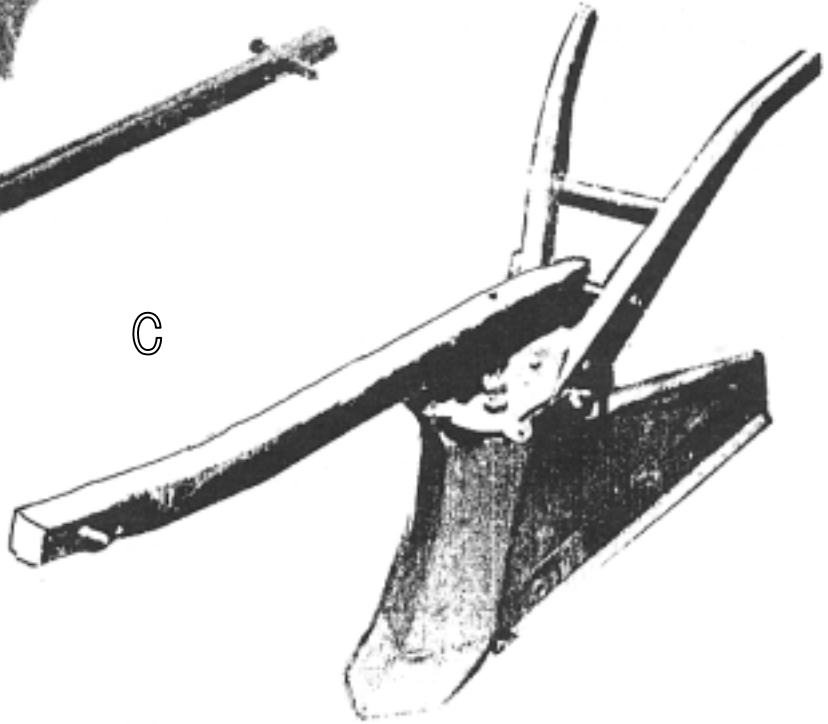
A



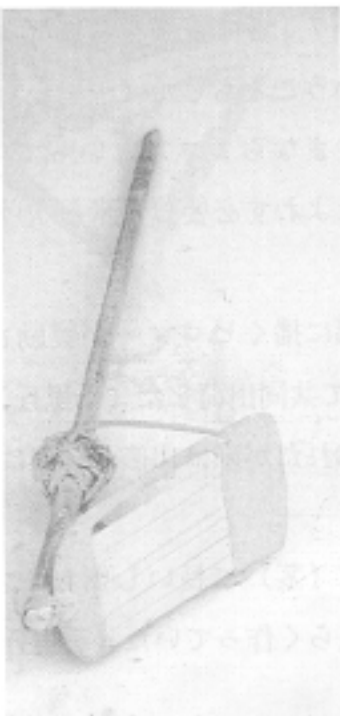
B



C



D



E

